

木や石の存在 ズレ心地よく 菅木志雄展

戦後の日本で生まれた現代美術の内外での再評価が進んでいる。木や石、鉄といったモノの存在を問うような表現を見せた「もの派」もその一つ。中核作家の菅木志雄(74)が、東京・六本木の小山登美夫ギャラリーで個展を開いている。

画面に木の部材を貼り付けたような壁掛けの作品や、床に石を配した作品など最新作約20点が並ぶ＝写真。以前より仕上げの精度が増した印象があり、ちょっとした部材のズレやそこから生まれるリズム、破調が明確に伝わり、心地よい。30日ま



で。

菅は東京・銀座の「GINZA SIX」6階でも、20点近くを集めた個展を7月4日まで開いている。

(大西若人)

国	作家	執筆者	文献タイトル	媒体名	発行日	頁	発行元	展覧会名
J	菅木志雄	大西若人	木や石の存在 ズレ心地よく	朝日新聞	2018年6月26日 夕刊	p.4	朝日新聞社	